

写真を通して未来を考える。

東京好奇心

2020 渋谷



TOKYO

CURIOSITY

Bunkamura ザ・ミュージアム
渋谷・東急本店棟
2020年5月23日(土) - 6月14日(日)

東京好奇心 2020 渋谷

TokyoTokyo
FESTIVAL

—100名の写真家の眼差しを通して“東京”が歩むべき道を考える—
パリ、ベルリンでの巡回を経て、集大成がいよいよ渋谷に

2020年5月23日(土)～6月14日(日)

Bunkamura ザ・ミュージアム（渋谷・東急百貨店本店横）で開催



齋藤 正義

©Masayoshi SUKITA



本城 直幸

©Naoki HONJO



上田 義彦

©Yoshiniko UEDA

Bunkamura と NPO 東京画（以下東京画）は、2020年5月23日(土)～6月14日(日)、16の国と地域を拠点に活動する100名の写真家の写真を通して未来を考える展覧会『東京好奇心 2020 渋谷』をBunkamura ザ・ミュージアムにて開催します。

東京画は、2011年春の東日本大震災に衝撃を受けた創設者太田菜穂子が、社会のために「写真」という表現媒体を通じて、何かできることはないか？という疑問から組織された活動体です。100名の写真家が東京を被写体とした作品をアーカイブすると同時に、彼らの眼差しを通して東京が歩むべき道をリアルタイムで同時代の人々と共に考えてゆく鮮度の高い発信活動を目的としています。今、東京で何を問題点として自覚し、何を美しいと判断し、何を悲しく想い、何を大切だと感じ、そしてどんな可能性を見ているかを、写真として提示したいという思いのもと、この十年間、大きく変貌を遂げようとする東京という都市の鼓動と呼吸を共に感じ、ひらすら真摯に「今という時間」に向き合い、ここで起こる事実を積み重ねてきました。

そしてこの活動は「東京好奇心」というプロジェクトとして具現化しました。2018年1月に渋谷ヒカリエでスタートし、同年10月に「ジャポニズム 2018」の公式プログラムとしてパリ市4区庁舎で展覧会を開催。2019年4月から5月には「ベルリン東京友好都市締結25周年」の公式プログラムとして、ベルリン市庁舎およびベルリン日独センターにて展覧会とシンポジウムを行い、非常に大きな反響を呼びました。国際的な評価を得た本プロジェクトは、いよいよスポーツと文化の祭典「東京オリンピック・パラリンピック」イヤーとなる2020年、渋谷に凱旋。Bunkamura ザ・ミュージアムにて『東京好奇心 2020 渋谷』を開催する運びとなりました。本展は、東京の本質を色濃く反映する渋谷を舞台に、写真を通して人々の“好奇心”を呼びさまし未来を考える展覧会となるはずで

展覧会概要

タイトル：『東京好奇心 2020 渋谷』

英語タイトル：『TOKYO CURIOSITY 2020 SHIBUYA』

会場：Bunkamura ザ・ミュージアム（渋谷・東急百貨店本店横）

〒150-8507 東京都渋谷区道玄坂2-24-1 www.bunkamura.co.jp

会期：2020年5月23日(土)～6月14日(日) 会期中無休

*チケット料金および発売日、開館時間などの詳細は、追って公式ホームページにて発表いたします。

展覧会特設サイト：<http://www.tokyocuriosity.jp>

主催：Bunkamura 東京画

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団

アートカウンシル東京

後援：渋谷区

INSTITUT FRANÇAIS

GOETHE INSTITUT

メルセデス・ベンツ日本

KLEE IN 2 PARIS TOKYO

サポーターズ：Lufthansa Cargo Lufthansa DHLグローバルフォワーディングジャパン



メルセデス・ベンツ日本



協力：フレームマン ピクトリコ 写真弘社 フォトグラファーズ・ラボラトリー

特別協力：日本写真会

TOKYO
CURIOSITY

プレスお問合せ先 | 東京好奇心 PR事務局 HOW INC.

〒107-0062 東京都港区南青山 2-22-14 フォンテ青山401

Tel: 03-5414-6405 Fax: 03-5414-6406 Mail: pressrelease@how-pr.co.jp

『東京好奇心 2020 渋谷』 100名の写真家

浅川 敏、ネイヴィッド・バラティ、リオネル・ベカ、エヴァレット・ケネディ・ブラウン、地蔵 ゆかり、レナート・ダゴスティン、マイケル・フェザー、ステファニー・フレス、ミッシェル・フラピエ、藤井 春日、福原 信三、アキ・ゴトー、ローランド・ハーゲンバーグ、トーマス・ハラ、平林 達也、広川 泰士、広川 智基、實槻 稔、本城 直季、坂保 昇寿、細江 英公、池 厚一郎、伊奈 英次、稲越 功一、石下 理栄、石塚 元太良、石山 貴美子、伊藤 計一、神宮 巨樹、神村 大介、叶野 千晶、加藤 純平、河西 春奈、古賀 絵里子、小島 康敬、こくまい 太、クー・ボンチャン、公文 健太郎、栗原 論、ホワン・レー・ギエン、セヴァスチャン・ルベグ、ステイーヴン・リー、イルス・リーンダース、マーティン・ロイツ、エドワード・レビンソン、ステイシー・リウ、ルット＝プレス・ルクセンブーグ、牧野 智晃、港 千尋、宮原 夢画、宮腰 まみこ、サラ・ムーン、森田 友希、森山 大道、中野 正貴、中島 洋紀、西野 壮平、野田 光治、野村 佐紀子、大西 みつぐ、大和田 良、大矢 真梨子、奥山 淳志、オノツトム、セサル・オールドネス、ラルス・ピルマン、マーク・リプー、ナナ・サフィアナ、サトウタケヒト、新藤 琢、新谷 有幹、リリー・シュウ、ヴァンサン・スリエ、ジェレミー・ステラ、菅原 一剛、鋤田 正義、澄 毅、田原 桂一、瀧本 幹也、田尾 沙織、達川 清、立木 義浩、所 幸則、東松 照明、土田 ヒロミ、上田 義彦、宇井 真紀子、宇壽山 貴久子、ルィーズ＝クレール・ワグナー、鷺尾 和彦、わたなべ みか、渡辺 一城、セリーン・ウー、山田 祐基、ハービー・山口、山本 雅美、柳本 尚規、横木 安良夫、ナディラ・ザカリヤ、ギュンター・ツォーン

出展作家 16の国と地域

アルゼンチン、オーストリア、中国、フランス、ドイツ、香港、イタリア、日本、韓国、マレーシア、オランダ、スペイン、スイス、英国、アメリカ合衆国、ベトナム

表記：英語表記のアルファベット順

展覧会に寄せて

日本の文化は欧米人の目には、西洋文化とはあらゆる意味で異なるように映るようです。しかし我が国の歴史を振り返ると、日本社会はその発展や生活様式の変化という意味で、折々の外来文化の影響によって変化し、形成されてきました。日本列島のほぼ中心に位置する首都、東京。独自のカルチャーを持つこの都会もその例外ではありません。多様な影響を受け、時間をかけ、ゆっくりと現在の東京が誕生したのです。近年、世界中から熱い注目を浴びるようになった渋谷、この街はそんな東京の本質が色濃く迎えるエリアです。多面的なその表情には、日本文化のコントラストやパラドックス、ユニークな魅力やエキゾチズムが凝縮しています。その一方で、パリやベルリンにも共通するグローバル・シティーならではの資質もしっかり備えています。渋谷には歴史が紡ぎ出してきた伝統や品格と共に、多文化主義、モダニティー、さらには個性豊かなサブ・カルチャーが共存することで、常に互いに影響し合い、ここに集う人々を新たな創造へと導くダイナミックでクリエイティブな環境が存在しています。

『東京好奇心』は、2018年1月、渋谷 Hikarieでのキックオフ展を皮切りに、東京のユニークな魅力と可能性を世界の方々と分かち合い、2018年秋のパリ、2019年春のベルリンを経て、2020年5月に東京に戻ってまいります。写真を起点とする濃密な会話が交わされたパリ、ベルリンを経て、『東京好奇心』は2020年、渋谷を舞台に都市の未来を考えるビジュアルコミュニケーションを展開したいと念じております。

太田 菜穂子 「東京画」コミッショナー/ファウンダー

『東京好奇心』 -4つのKeynotes-

IDENTITY

私たちは何者か？

自分をどのように定義し、他者にそれを認識させることができるか？

DIVERSITY

世界に共存する多様な価値や規範とどのように向き合うか？

自然環境・文化・宗教・習慣・ライフスタイル

HERE AND NOW

今、ここで生きる価値とは？

現代社会の身体感覚と調和する価値観や美意識

TIMELESSNESS

永遠に色褪せることのない精神の有り様とは？

伝統や文化を継承させる真髄

展示構成（予定）

写真の力を物語る多角的表現手段で来場者のインスピレーション、イマジネーションに訴えかけ、過去から、現在、そして未来へとつながる共通の記憶を紡ぐユニークな写真空間を創出します。

100名の写真家による写真展示 | 『TOKYO CURIOSITY by 100 photographers』

100名の写真家の眼差しを、コロタイプやプラチナなど写真文化を支えてきた多様なプリントの魅力や表現力を通してご堪能いただけます。

写真でストーリーを紡ぐムービングフォトグラフィー | 『The Moving Photography by TOKYO-GA』

作家のオリジナリティーにフォーカスした作品群を最高品質のプロジェクターでご覧いただけます。

アート・インスタレーション | 『IDENTITY & DIVERSITY』

Featuring Photographers: 瀧本 幹也 Mikiya TAKIMOTO / 『Surface』

山田 祐基 Yuki YAMADA / 『重我像』

特別企画

展覧会レゾネ 『TOKYO CURIOSITY 2018～2020』

<100名の参加作家の完全保存版図録を製作>

題字 『東京好奇心』 川邊 りえこ

アートディレクション 浅葉 克己

序文 クリストフ・ジラルド (Christoph GIRARD) パリ市副知事、ミハエル・ミュラー (Michael Müller) ベルリン州首相

タブロイド (フリーペーパー)

<本展の魅力が多面的にフォーカスした『TOKYO CURIOSITY 2020 SHIBUYA』タブロイドの製作>

24ページ構成のタブロイド (バイリンガル) を本展来場者に無料で配布する他、渋谷区各所に設置予定。

関連グッズ 『TOKYO CURIOSITY』

写真家とクリエイターのコラボレーションにより制作

書き込み式写真集展示 『La Librairie Imaginaire by 100 photo books』

<空想の本棚>

参加作家の世界観を伝える写真集をBunkamura館内にて展示予定。写真集と向き合う“時間”をお楽しみいただけます。

『東京好奇心 2020 渋谷』に寄せて

日本と日本人の力は、伝統を守りながらも常にその時々の中での適応させながら再生し新たな命を吹き込んでいくところにある。先の即位礼正殿の儀もそうだ。平安絵巻さながらだが、現代の息吹が感じられる。日本にはそういう時空を超えた多様性がある。100人の写真家たちも、多様な国籍の持ち主で、様々な角度から東京の実像を切り出している。この多様性による持続性が、未来へと立ち向かっていく我々の力ともなるし、世界への普遍的メッセージへとつながる。『東京好奇心』は、我々東京人が普段気づかないこの街の多様性を浮き彫りにし、未来へのヒントを与えてくれている。浮世の多様性を写し出す『東京好奇心』は様々な文化の懸け橋となり、持続可能な未来社会へのゲートウェイの役割を果たしているのだ。昨年パリで、今年ベルリンで激賞された『東京好奇心』がいよいよ日本に戻ってくる。この『東京好奇心』はきっと出ていく前の『東京好奇心』とは全く違ったものとなっているのではないか。一旦欧州に溶け込みそして力強く再生した『東京好奇心』は、五輪を迎える私たちに何を問いかけてくるのだろうか。ワクワクしてくる。『東京好奇心 2020 渋谷』始動、おめでとう。

鈴木秀生（外務省 国際協力局 局長 / 『東京好奇心』アドバイザーボード）

組織について

『NPO東京画』

BOARD MEMBER

理事長・チーフ・キュレーター	太田 菜穂子	株式会社クレイ・インク 代表取締役
理事	杉山 恒太郎	株式会社 ライトパブリシティ 代表取締役社長
理事	田中 正人	東京大学 名誉教授
理事	ギンター・ツォーン	日本板硝子株式会社 社外取締役・取締役会議長
事務局		
アート・ディレクター	柿木原 政広	
空間設計監修	山口 誠	
エグゼクティブ・オフィサー	池末 浩規	

『東京好奇心』

ADVISORY BOARD

リシャル・コラス	シャネル株式会社 会長
クリストフ・ジラール	パリ市副知事 文化担当
カリン・レン＝カウフマン	ライカ・インターナショナル ギャラリー・アートディレクター
松崎 正年	コニカミノルタ株式会社 取締役兼取締役会議長
サラ・ムーン	写真家
野本 弘文	東急株式会社 取締役会長
鈴木 秀生	外務省 国際協力局 局長
齋藤 峰明	シーナリーインターナショナル代表

PHOTO IMAGES



サラ・ムーン

©Sarah MOON



レナート・ダゴスティン ©Renato D'AGOSTIN



瀧本幹也

©Mikiya TAKIMOTO



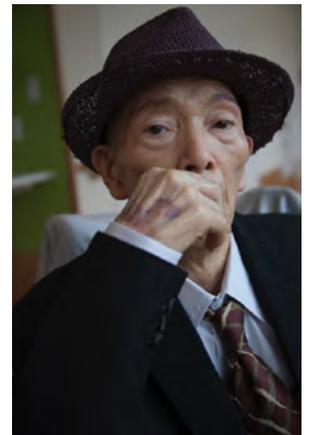
ラルス・ピルマン

©Lars PILLMANN



澄毅

©Takeshi SUMI



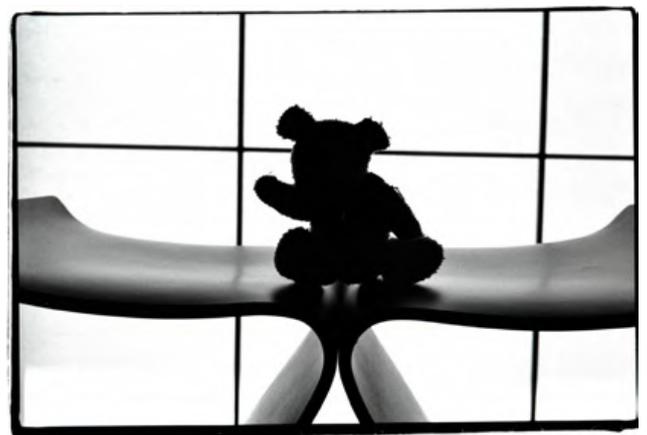
野村 佐紀子

©Sakiko NOMURA



大和田良

©Ryo OHWADA



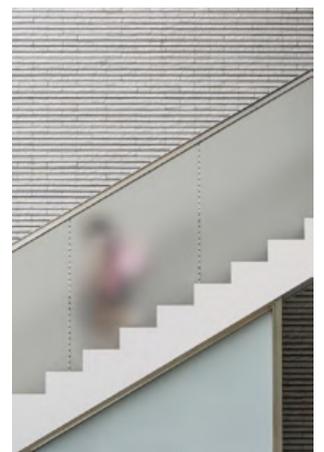
ローランド・ハーゲンバーク

©Roland HAGENBERG



セサル・オルドネス

©César ORDÓÑEZ



マーティン・ロイツ

©Martin LEUZE

参考情報

これまでの活動

TOKYO CURIOSITY 2018 PARIS

会場：パリ市4区庁舎

会期：2018年10月18日～11月17日

『ジャポニスム 2018』『パリ・東京タンデム』公式プログラム



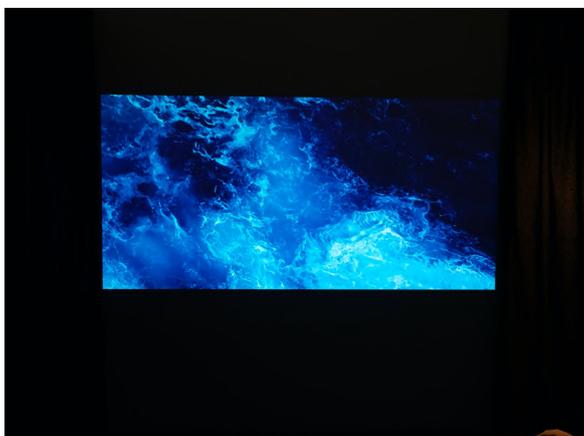
左 | 『TOKYO CURIOSITY 2018』 200点のパネル作品 & 写真集の展示

右 | 特別内覧会(2018年10月18日)

木寺昌人 駐仏日本国特命全権大使、アリエル・ヴェイユ パリ4区区長、カレン・テイブ パリ市文化財保護担当副知事、
「東京画」アドバイザーボードのサラ・ムーン氏、パリ日本文化会館館長 杉浦 勉氏のご臨席



プリント展示 (サラ・ムーン / 田原 桂一)



映像作品のプロジェクト

左 | 『Surface』 瀧本 幹也

中 | 『重我像』 山田 祐基

右 | 『からす』 宇壽山 貴久子

参考情報

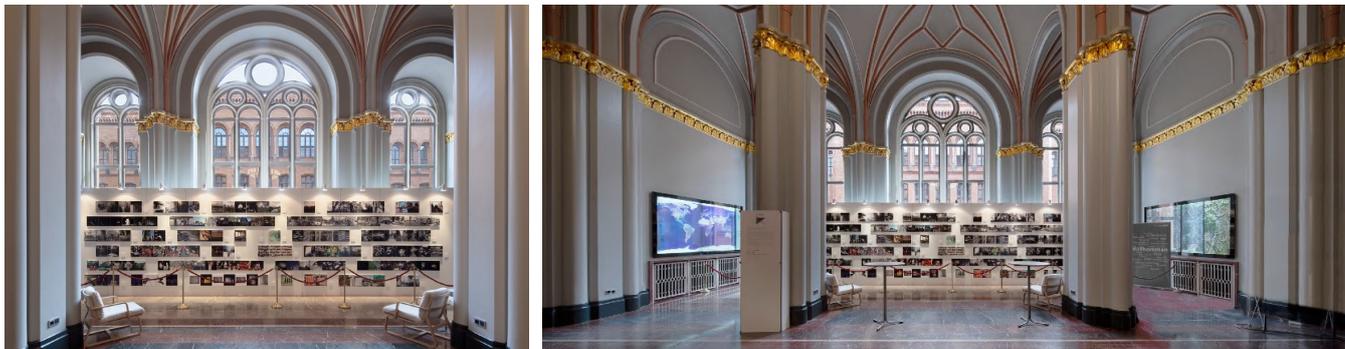
これまでの活動

TOKYO CURIOSITY 2019 BERLIN

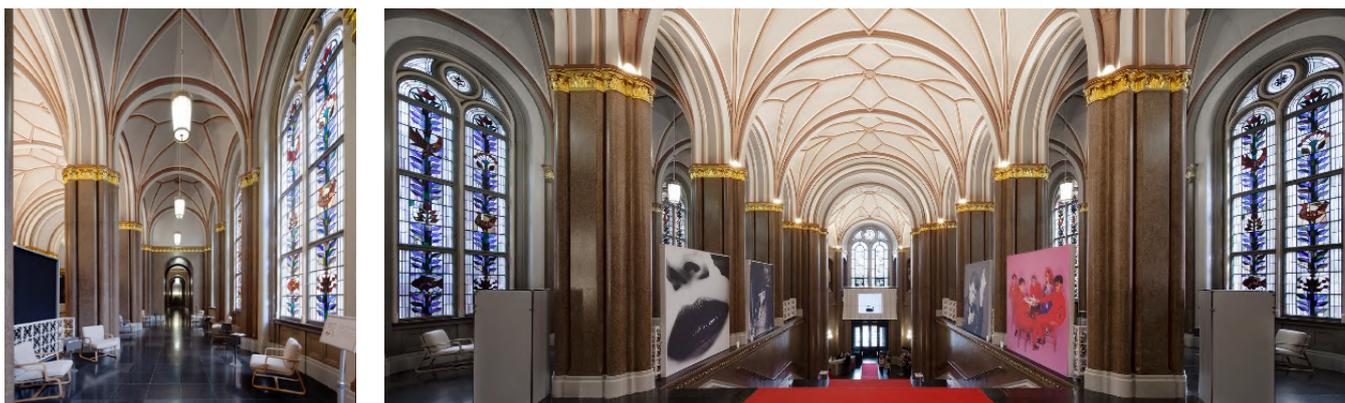
会場：ベルリン市庁舎

会期：2019年4月15日～5月29日

『ベルリン東京友好都市締結25周年記念』公式プログラム



ベルリン市庁舎 | Berliner Rathaus フォワイエ空間での『TOKYO CURIOSITY 2019』展示



左 | ベルリン市庁舎大回廊での写真集閲覧コーナー

右 | ベルリン市庁舎大階段でのインスタレーションとプロジェクション



左 | ミヒャエル・ミュラー ベルリン州首相主催のオープニングと内覧会(2019年4月12日)

右 | 内覧会でのミュラー首相と八木 毅 駐独日本国特命全権大使